



SHINKOニュース

NO.164
平成30年10月1日
信光陸運株式会社

「より安全に より迅速に より高い品質の提供」

平成30年度 年間スローガン 「決める～やる～皆でやりきる」

平成30年度 品質スローガン 「築き上げよう SHINKO品質」

「防災意識を高めよう」

日本列島は昔から地震大国といわれ、また台風の通り道であることからこれまで幾度となく大きな被害を受けています。

近年記憶に残る大きな災害といえば、2011年3月11日に発生した東日本大震災、2014年8月20日には広島土砂災害、2016年4月4日には熊本地震、2018年9月4日関西地方に大きな影響をもたらした台風21号、間を空けず2018年9月6日には北海道胆振東部地震とここ数年大きな自然災害による被害が続いています。

地震、津波、豪雨、土砂災害など自然災害は避けることができず、いかに早く判断を間違えずに対処できるかがカギとなっています。

こうした中、以前から話題には上りますが一般人の防災意識はまだ低く、これだけ立て続けに自然災害が増えている状況からすれば、これを機会に本気で防災に対する関心を高める必要があります。

最近では各ショッピングセンターにて、防止グッズコーナーを設けているところが多く、多種多様な製品が陳列されています。

内容的には水をくむタンク、携帯トイレ、ウェットティッシュ、水、缶詰など日持ちがする食品、携帯用ラジオ(手巻きによる発電機能付き)などバラエティに富んだ製品が、いろいろ組み合わせられセットとなっています。

ただあくまでも推奨する製品の最低限度の量しかなく、家族構成や年齢等を考えれば、必要な用品と量は各家庭で異なってきます。

特に赤ちゃんなど小さなお子さんがいる家庭では、ミルクを飲ませるための水はもとよりお湯を沸かせる物も用意する必要があります。また高齢者がいる家庭では、横になれるような簡易ベッドも必要になるのではないのでしょうか。

ひとたび大きな災害が起これば、通勤自体ができなくなるのみでなく、時間帯によっては帰宅もできなくなる可能性も十分にあります。そういったケースも考慮し、何がどれだけ必要か今一度家族と話し合ってください。

また家にいる時に地震等が発生して一番危険なことは、家具の転倒にや窓ガラスが割れた時の破片による怪我です。

うちは部屋が広いから大丈夫とか、既にストッパーを取り付けているから安心と思っていても、人が近くにいれば危険ですし、ストッパーも緩んでいる可能性も否定できません。その点についても今一度点検してください。



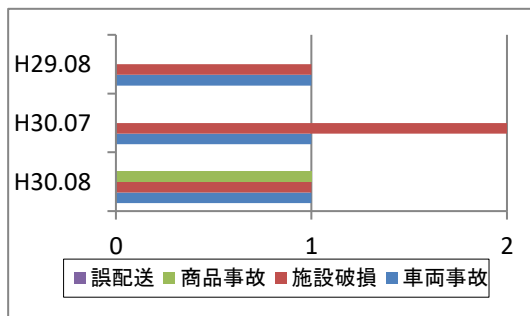
10月の安全重点目標

- ※事故撲滅！車両・施設
- ※低速度での追突・逆突防止
- ※秋の全国交通安全運動
- 9/21(金)～9/30(日)

8月度品質結果

協会社含む

	H30.08	H30.07	対前月比%	H29.08	対前年比%
車両事故	1	1	100%	1	100%
施設破損	1	2	50%	1	100%
商品事故	1	0	増加	0	増加
誤配送	0	0	-	0	-
計	3	3	100%	2	150%





【社内統制及び確認事項について】

- (1) 運行記録計(デジタコ)のプログラム更新について
荷積・荷卸は社速1km/hでリセットされ走行とみなされる。(合法設定に更新)
- (2) 安全・経済運転管理、改善基準告知超過の是正について
特に速度超過・運転時間(9時間/1日)、連続運転(4時間に30分以上の休憩等)
- (3) 点呼時免許証リーダーによる免許証確認の徹底について
ID番号手打ちでの点呼の禁止(やむえない理由がある場合は申し出る)。

【その他連絡事項】

- ① 点呼場事業所内ごみ分別の徹底について
点呼場のごみ分別は:可燃ごみ & プラスチック箱の2種類
可燃ごみ……紙くず、割りばし類、紙パック、生ごみ、タバコの吸い殻など
プラごみ……プラスチック(コンビニ弁当容器)、ビニール類(レジ袋他)
古紙(雑誌・新聞紙)
※ペットボトル、使い捨てライター、乾電池などは廃棄禁止。

【夜間勤務従事者検診を終えて】

平成30年7月14日(土)に実施しました夜間勤務従事者検診ですが、繁忙期も重なり一部対象者の受診が遅れたものの、8月20日までには対象者57名全員が無事受診することができました。

毎年実施しているこの検診ですが、定期検診とは異なり内容的には血液検査がないため単純比較は難しいですが、今回の結果を受け産業医から再検査が指摘されているのは、受診者総数自体が定期検診に比べ39%と少ない状況ながら3名と受診人数に対する比率は5.3%となっており、定期検診時の10.3%(受診者数145名に対し再検査対象者15名)に比べ比率は低下しております。

一方ここ数年当社が特に注目し再検査を自主的に実施している高血圧に関しては、まだ高血圧と判断される一般的な基準値(上が140以上)を上回る社員も多くいます。再検査指示があった方には個別に再検査指示書を配布しておりますが、配布されていない方でも、通常高めの数値を示しているかたは病院での診察を積極的に受けるようお願いいたします。

近年テレビ、雑誌でも心筋梗塞など成人病の記事が目立っており、全体的に血圧に対する意識自体が高まっています。自宅でも測定できる機器も多くありますので気になる方は試してみてください。